邯鄲諸國物語

三
四

へ13
3223
30

へ13 特
3223
30

大和卷前帙

邯鄲諸國物語

種彦作
國貞画

天保乙未三編

新彫

榮久堂梓

天保六年乙未孟春發行

邯鄲諸國物語

大和卷前帙

柳亭種彦作　歌川國貞画

よし町
親仁橋
榮久堂
山本
平吉梓

歌川國貞畫

天保六年
乙未孟陽

稚長諸國物語

大和の巻前帙上

一

秀雄 彫

稚長諸國物語

大和の巻前帙下

榮久文庫

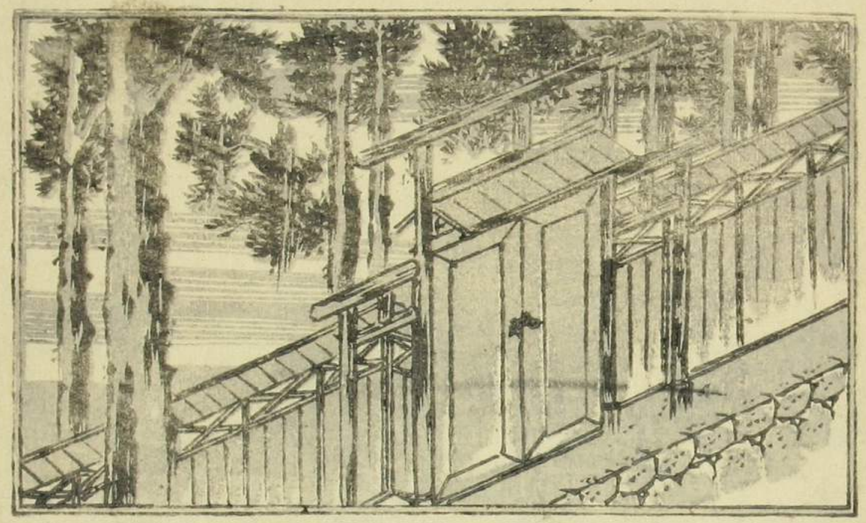
事の近江の巻は發ちまと
遊さんとすれども大和の國をまもりての二條の物語はいとゝ中の

かんなむ
諸ふ
もれくるる
種彦作
國貞画

大和の巻 前帙下冊

榮久堂
梓行

天保八年丁酉發春



邯鄲諸國物語

大和の巻
後帙上

柳亭種彦作
歌川國貞画

東都親仁橋
榮久堂製本

種彦諸國物語
歌川國貞畫
大和の巻
種彦諸國物語
天保丁酉春
愛敬
吉慶板

種彦作　國貞画

邯鄲諸國物語大和卷

大和の卷
後帙下

山本平吉
壽梓

邯鄲諸國物語大和卷前帙

忠臣不事二君。貞女不更二夫とハ誰こも知る史記田單附傳王蠋が詞なり是卷ハ鍾三郎が二君に事て從火禍其身を亡し小篠が二夫を更て苦辛まるの談柳ふて巢林子二方翁の冊子より出られども惡を記し善戒を垂ることを旨趣として事實の如く編りしゆゑ淨瑠璃かぶきなぶ准へ繪ざうしよりハ殊更興なく繪樣も又花美なるゆゑ竹馬芥雞ゆかへて童子の戯弄とあなどり勸善の端こもあらん欲

天保六年乙未發春

柳亭種彦

旅の女 小篠のちふ

鍾三の後妻

茂山鍾三郎 的具

後落窪鍾三

鍾三郎の亡妻 小佐美夫の夢ふきてゝ會也

難波新町の
娼家
玉柏屋の娘
於谷

鍾二郎の一子
落窪
京太郎

醫者
天原
流波

青山鍾二郎の仕合
箱積
一有斎

一有斎
娘
小佐義

鍾

京

鍾

京

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文字抄

源氏五十四帖　格彩色　小錦絵

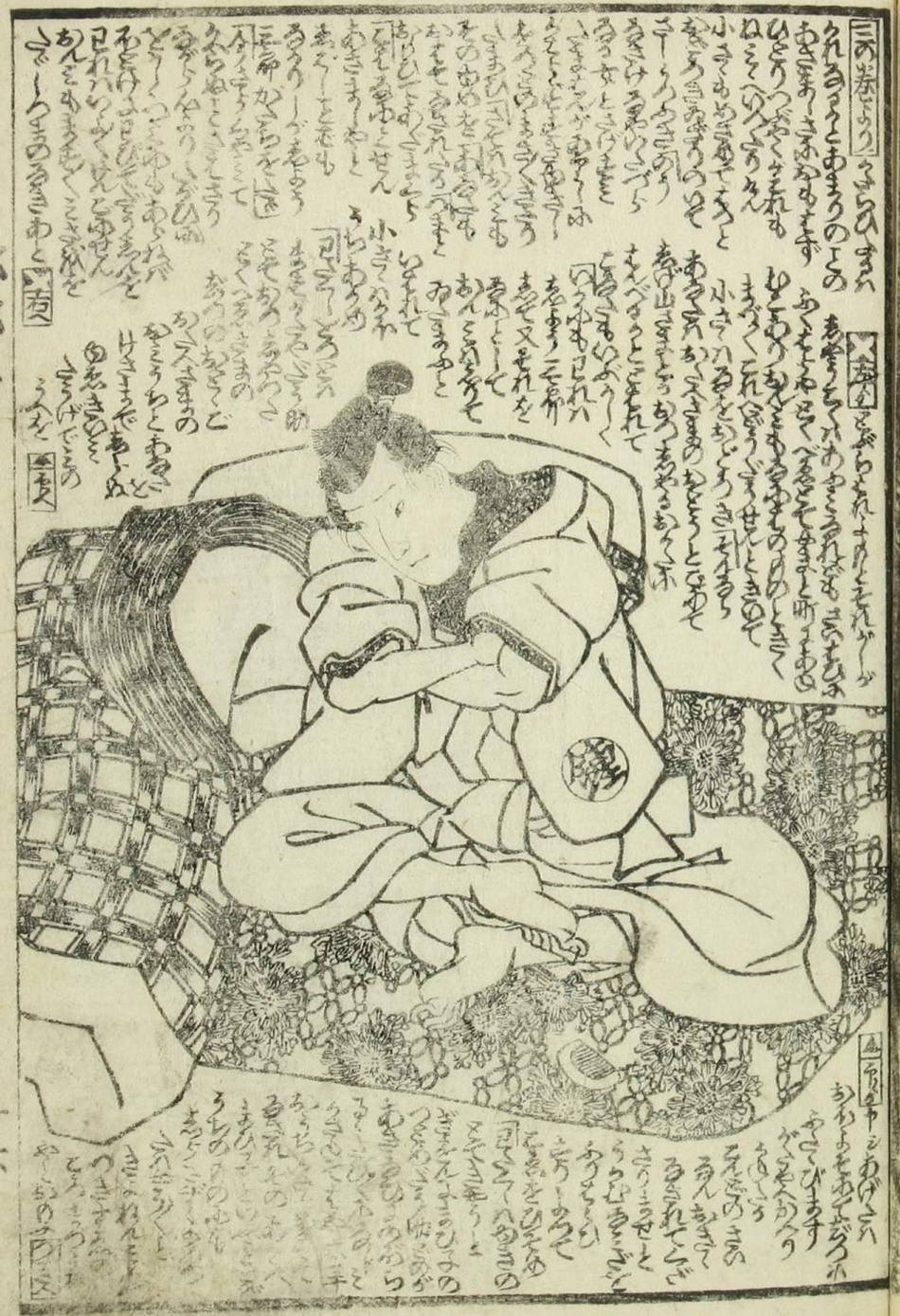
御誂染逢山鹿子　六編揃

縁結妹脊双六

東都錦繪所　江戸ちやち橋角　山本平吉梓

三

上の巻つゞき



高かめ山道
左ひろう寺

花ぎき
花蝶

邯鄲諸國物語

初編九編送来 柳亭種彦作
九編十編新刻 一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃 山東庵京山作 十編 新刻 一陽齋豊國画

龍月猫のさうし 山東庵京山作 六編 七編 一勇齋國芳画

雲の友しの竹紙 山東庵京山作 初編二編 新刻 一陽齋豊國画

美艶仙女香 一包四十銭 糸格子伝 ちょうしゃ 黒油美玄香 坂本氏製

榮久堂 江戸芳町親仁橋角 山本平吉版

仙女香七變化粧 十返舎後一九作 二編 一陽齋豊國画

竹女一代記 五蘭齋作 四編 哥川貞秀画

隅田川月姿見 式亭小三馬作 三編 一陽齋豊國画

國貞画種彦作

奉献正八幡宮寶前

高市

落穴槌鍾三的是

浄書千形道友

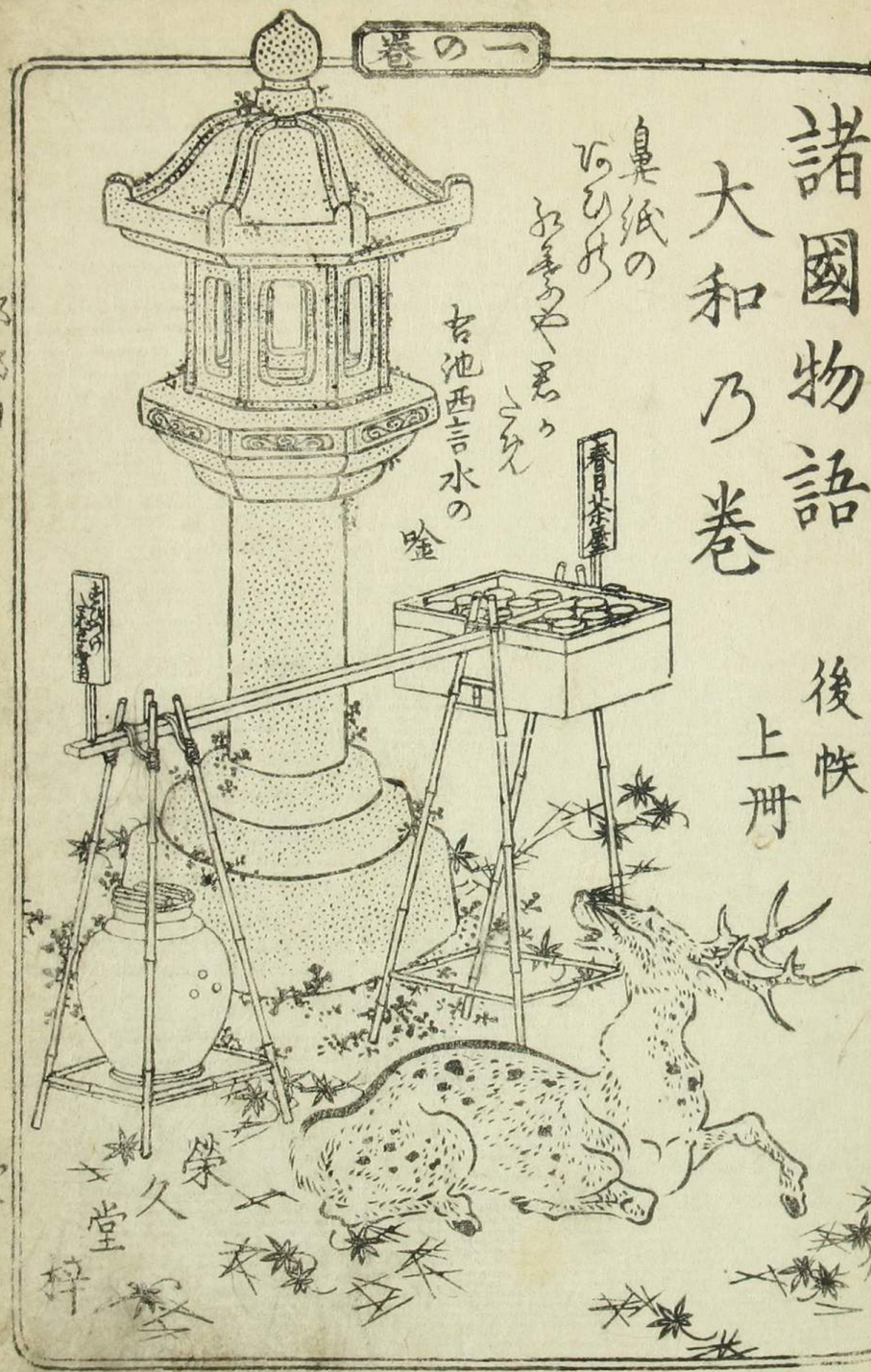
○ちょう二ちゃう三ちゃうよつゝ

○小こい二ちゃを久る

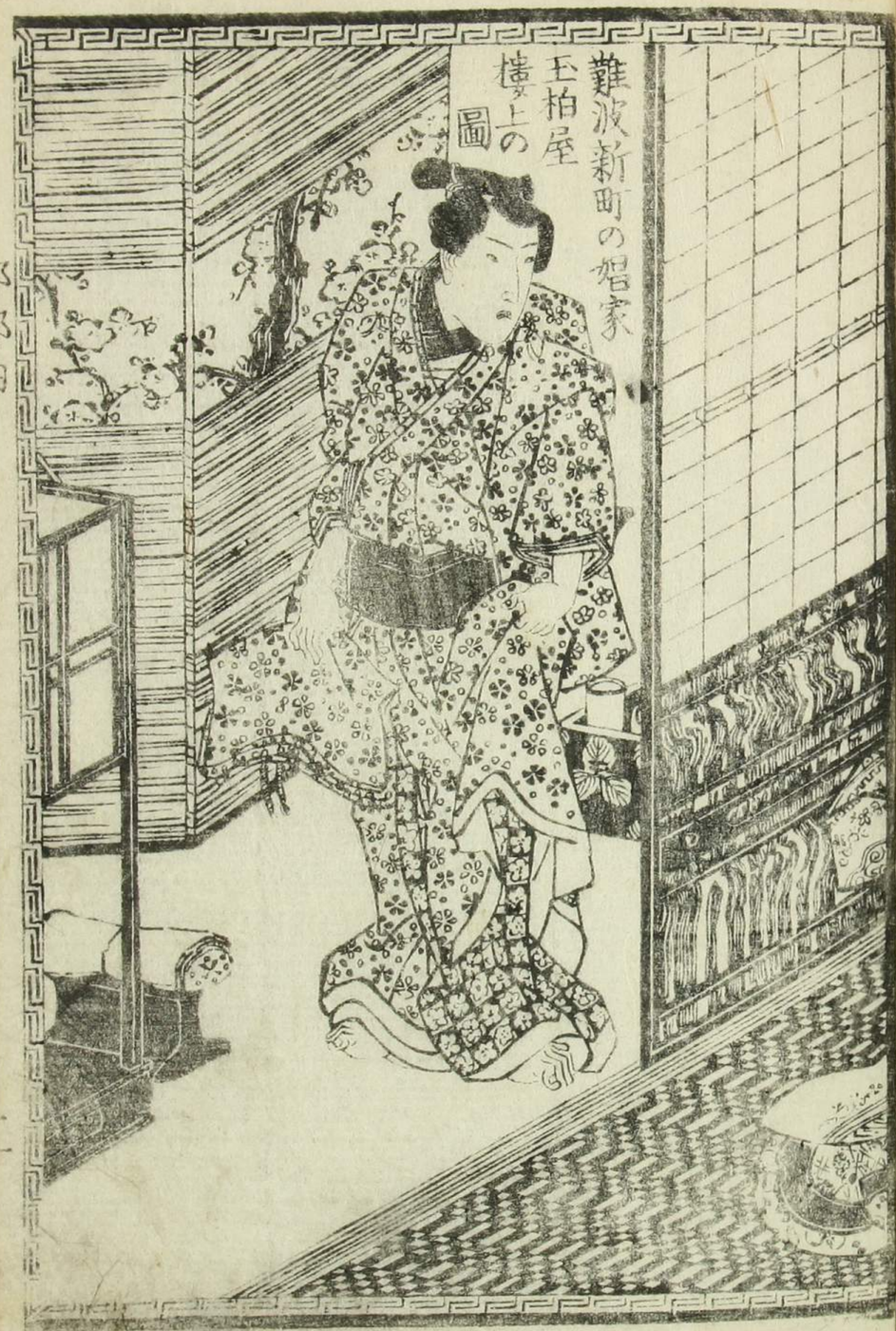
後除を

一の巻

諸國物語 大和乃巻 後帙 上冊



栄久堂梓


難波新町の娼家
玉柏屋
樓上の
圖

京
蛭

蛭

落注鍾馗
同京太郎

二
○官六郎の
一子綾七
○官六郎の
草履
木偶内

この山圖をえらんで雑物表の裡あり

榮久堂刊行藏板略目

東都錦繪所　江戸町おやぢ橋角
山本平吉梓

永花百人一首文字抄

旨書

繪抄

源氏六十四帖

格彩色
小彩繪

右源氏物語五十四帖の文字を一絵に成り　彩色を附し　格彩色
色ふたり　くれば　ふる　格方にて　ぎ　ん
を　西　ひ　ひ　ふ　古　今　品の
彩絵　なり　五　彩　色　絵　で　ま　る

但五十四枚揃　たゝ人
はあ入

御誂染逢山鹿子

六編揃

縁結妹脊双六

明治四

書狀
入用

宮

宮寶前
高市
柏木太夫
川竹
謂
木卯
御泉亭

八幡宮

邯鄲諸國物語

初編〜編迄出来 柳亭種彦作
九編〜十編新刻 一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃　山東庵京山作　十編　新刻　一陽齋豊國画

朧月猫のさくら　山東庵京山作　六編　七編　一勇齋國芳画

素の姿しの竹紙　初編二編　新刻　一陽齋豊國画

仙女香七變化粧　十返舎後一九作　二編　一陽齋豊國画

竹女一代記　三蘭齋作　四編　哥川貞秀画

隅田川月姿見　式亭小三馬作　三編　一陽齋豊國画

美艶仙女香　一包四十銭　業平香　高橋義信　ろ町ニ十自　黒油美玄香　坂本氏製

久榮堂　江戸芳町親二稿角　山本平吉版

歌川國貞画　柳亭種彦作

[作者口上]
さてさてうたがはしきかぎりなれども
きさまうのくちばしるまことをもつて
一のゝしと後世とをうしりぬれば目づりちぶのく

大保丁酉春發販

大和卷後帙

種彦作

國貞画

邯鄲諸國

四編 物語

榮久堂梓